

【 2017ユース世界選手権 】

2017年8月8日～8月20日 ジョージア・トビリシ

試合結果報告 8月12日 (土)

J P N	VS	CHI(チリ)
17	前半	15
18	後半	12
35	合計	27

個人得点

名前	前半	後半	7MTC		合計
高野 颯太	3	1			4
末岡 拓美	3	1			4
阿部 奎太	0	2			2
部井久アダム勇樹	4	4			8
服部 将成	1	1			2
徳田 廉之介	4	4			8
村木 幸輝	0	0			0
山田 翔騎	0	0			0
堀田 陽大					0
矢野 世人	0	1			1
寺島 健太	0	0			0
中村 光					0
本田 悠也	0	0			0
蔦谷 大雅	2	4			6
川崎 駿	0	0			0
戸井 凱音	0	0			0
					0
					0
合計	17	18	0	0	35

戦評

予選リーグ4戦目は南米のチリが相手。勝てば決勝トーナメント進出へ大きく近づく今大会最も重要な試合の1つ。若干セットオフェンスで固さがみられた日本だが、2分過ぎたあたりで左右の主砲NO.5部井久、No.7徳田がエンジン全開。ロング、ミドル、カットインとチリのディフェンスを切り裂く。できた裏のスペースからNo.2高野が得点と理想的な展開で3連取を2回と好調の出だして7-3とする。たまたまチリは6-0から5-1ヘシフトチェンジし、日本のバックコート陣の走り込みとパスワークを分断しにかかる。走りこんだ1対1を封じられた日本のオフェンスは後手に回り、得点が伸び悩むも、No.12GK堀田を中心としたディフェンスで踏ん張り、簡単には失点しない。そのまま点を取りあい前半を17-15と2点リードで折り返す。

後半戦は日本が2人退場からスタート。開始早々失点するが、嫌なムードを断ち切ったのはこの試合ラッキーボーイのNO.24蔦谷。速攻で19点目を叩き込むとここから日本の速攻が炸裂。No.7徳田、No.2高野をはじめ4連取で抜け出す。10分過ぎで日本ベンチはNo.4阿部をレフトバックに投入。攻撃のテンポを変え、主導権を握ったまま試合を進める。16分過ぎには26-20と6点差がついたところでNO.5部井久をレフトバックへ再投入、このベンチワークが功を奏し、NO.5部井久は立て続けにセットオフェンスで強烈なロングシュートを叩き込む。「試合を決めるなら今」、と言わんばかりに集中力を高めた日本はNo.24蔦谷、No.4阿部らがホールからみ怒涛の5連取と一気にスパート。後半26分、33-24と試合を決めた。最終的に35-27と8点差で快勝。勝ち点を4に伸ばした。予選リーグ突破が濃厚となり、次戦以降は新たな目標を再設定することでチームのテンションを維持したい。

報告記入者 :

吉村 晃